



# DX推進レポート

DIGITAL TRANSFORMATION REPORT  
Takachiho Co-Creation Corporation

発行日: 令和8年1月1日

## 0. 経営者メッセージ

株式会社高千穂まちづくり公社は、地域資源を最大限に活かし、「稼ぐ力の強化」と「地域課題の解決」を両立する地域商社として、持続可能なまちづくりに取り組んでまいりました。

人口減少・人材不足・観光需要の変動など、地域を取り巻く環境は大きく変化しています。こうした状況において、デジタル技術の活用は、地域経済の活性化と組織運営の高度化に不可欠な基盤であると認識しています。

当社は、業務の標準化・効率化、データに基づく意思決定、顧客体験価値の向上、そして地域事業者との連携強化を柱としたDXを推進します。

本レポートに示すDX戦略を着実に実行し、地域の皆様とともに、持続可能で活力ある高千穂町の未来を創造してまいります。

代表取締役社長  
甲斐 宗之

# 1. 企業経営の方向性および情報処理技術活用の方向性

## ■ 経営理念・ミッション

- ・地域資源を活かした持続可能なまちづくり
- ・地域商社としての「稼ぐ力」の創出
- ・地域内経済循環の促進
- ・地域事業者との協働による価値創造



## ■ DXの位置づけ

人口減少・高齢化・観光需要の変動などの環境変化に対応し、持続可能な経営を実現するために、デジタル技術を以下の目的で活用する。

- ・業務の標準化・効率化・データに基づく意思決定・顧客体験価値の向上・地域事業者との連携強化・組織文化の再構築

あわせて、モノの販売にとどまらず、生産者・観光客・関係人口をつなぐ「体験プラットフォームの構築」を目指し、地域の価値をデータで循環させるエコシステムを形成する。

## 2. DX基本方針



1. 業務標準化とデータ基盤の整備
2. データに基づく意思決定
3. 顧客体験価値の向上
4. 地域事業者との連携強化
5. 人材育成と組織文化の再構築
6. 地域価値を循環させる体験プラットフォームの構築

### 3. DX戦略 (具体的施策)



当社のDX戦略は、「基盤整備」「データ活用」「プラットフォーム化」の3段階で段階的に進める。

#### 【1. 業務プロセスの標準化・デジタル化】

紙業務の削減、在庫管理のデジタル化、POS連携強化により業務効率を高める。

**KPI:** 業務デジタル化率

#### 【2. 在庫・顧客データの一元管理】

POS・在庫・EC・ふるさと納税のデータを統合し、機会損失を防ぐ。

**KPI:** 在庫入力時間削減率・顧客データ整備率

#### 【3. 販売チャネルの最適化】

EC・催事・店舗のデータ連動により、販売効率と顧客体験を向上させる。

**KPI:** EC売上比率(物産事業)

#### 【4. 人材育成と組織文化の再構築】

全従業員のデジタル基礎力を高め、継続的に改善できる組織文化を醸成する。

**KPI:** デジタル研修受講率

#### 【5. 情報共有基盤の再設計】

Slack等の運用ルール整備により、部門間連携を強化する。

**KPI:** 情報共有に関する業務遅延の削減(年次改善)

#### 【6. 地域価値を循環させる体験プラットフォームの構築】

モノ・コト・ヒトをつなぎ、地域の価値をデータで循環させる仕組みを整備する。

**KPI:** プラットフォーム参加事業者数

### 4. 推進体制と 人材育成



DX推進  
統括責任者  
(代表取締役)

DX推進  
リーダー

外部専門家

部門担当者

当社ではDX推進を確かなものとするため、代表取締役社長をDX推進の統括責任者とし、全社の方針決定および経営資源の配分に責任を持つ体制を構築する。実務面においては、DX推進リーダーを中心、物産事業部・未来づくり事業部・管理部の担当者が連携し、部門横断でのDX施策を推進する。

DX推進事項の具体的な実務は、各部門の事務担当者およびデジタル担当者が主体となって取り組み、社内のIT人材が技術面においてサポートする体制とする。

また、新規システムの導入や人材育成に関しては、DX推進リーダーおよび各部門担当者が外部の専門家を積極的に活用し、社内IT人材を中心とした従業員の技術向上を図ることで、持続的にDXを推進できる組織基盤を整備する。

人  
材  
育  
成

実務に即した  
OJT

外部研修の  
活用

成長支援制度  
との連動

インナー  
ブランディング

当社は、DX推進を支える基盤として「人材育成」を最重要テーマと位置づけ、全従業員のデジタル基礎力向上と、部門ごとの専門スキル強化を段階的に進める。

外部専門家の活用、OJT、研修体系の整備を通じて、持続的にDXを推進できる組織文化と人材基盤を構築する。

## 5. DXロードマップ<sup>®</sup>

当社のDXロードマップは、現有リソースで無理なく進められる範囲に絞り込み、段階的に進める計画として策定している。

まずは基盤整備から着手し、運用定着を経て、最終年度にKPI達成とプラットフォーム化を目指す。

